

2023年度事業計画

学校法人 沖永学園

1. 学園の現状と基本方針

沖永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学1・高等学校1・中学校1・幼稚園2を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

① 生活科学科

<生活科学専攻生活文化コース>

生活文化コースの目標である社会性の育成については、2022度から継続して地域貢献活動、インターンシップを通じて行っていくことに加えて、2023度より渋谷区とのS-SAP協定参加企業との産学連携事業を計画している。インターンシップについてはコロナの影響が低減傾向にあり、担当教員とキャリアサポートセンターが連携し、新規受入企業開拓を推進していく予定である。地域貢献活動についても地域イベントなどがコロナ前程度に実施されることが見込まれるため、積極的に地域のイベントやボランティア活動などに参加し、地域の方々とコミュニケーションを取ることで社会性の育成と地域社会への貢献の両立を図る。

<生活科学専攻養護教諭コース・専攻科養護教諭専攻>

養護教諭に必要とされる資質・能力や実践力を磨くために現場から学ぶことを重視し、授業以外に渋谷区教育委員会と連携した区立小・中学校および地域と連携した子ども食堂や障がい者施設などでのボランティア活動を積極的に取り入れる。教育課程では、文部科学省の規定を上回る独自科目を設定し体験活動や演習を充実させ、一人職種である養護教諭が現場に出てすぐに仕事ができるような実践力をつけることを目指す。採用試験対策やリカレント教育にも力を入れ、卒業生を対象にした教育も継続して実施する。専攻科においては、さらに学びを深めたいという学生のためにI種免許の取得と合わせて、養護教諭として仕事をするにあたり自らの課題解決に向けて追究できるような研究活動にも力を入れた教育活動を推進していく。

<食物栄養専攻>

食物栄養専攻では、栄養士の資格を取得し、卒業後、多様な職種において活躍できる栄養士の養成を行うため、栄養士専門教育の他、総合演習において、専門知識を獲

得するカリキュラムを編成する。2022年度は給食管理実習(校外実習)において、事前・事後指導の充実を図り、学習成果を獲得することができたことから2023年度も継続して、教員と実習先、教員と学生および学生間のコミュニケーションを十分にとり、学生個々が校外実習において、確実に学習成果を獲得できる環境をつくる。加えて、総合演習において、1年次は、専門教養の習得、2年次は栄養士として仕事に就くための心構えや知識の習得が出来るように進めていく。

就職および進学において、2022年度も大変良好な結果が得られた。これは、キャリアサポートセンターと常に連絡をとりあい、学生との面談を通して、就職・進学をサポートした結果と考えられる。2023年度も、学生が取得した資格を活かした進路に進めるように支援を行う。フードスペシャリスト資格においては、2023年度は希望者が全員合格できるようさらなる支援を行う。

②こども教育学科

2022年度に引き続き学生の現場対応力・実践力強化を重点課題とする。具体的対応としては①渋谷区教育委員会および子ども家庭部の協力による区立幼稚園・保育所における一日参加実習での事前指導とボランティア活動への参加、②コロナ禍により3年間にわたり運営が停止していた帝京こども教育研究会の再開と参加、③帝京めぐみ幼稚園の協力を得て実施される現場実習の更なる充実、④キャリアサポートセンターと連携した公務員試験および四年制大学編入試験受験指導の継続、⑤独自科目「専攻演習」等におけるSDGsを考慮した多様な学習の展開、⑥2020年度より開始した帝京こども教育研究センター(学科教員によって構成される研究組織)研究会の実施等を図る。

③ライフケア学科

<臨床検査専攻>

医療現場におけるチーム医療の推進やタスク・シフト/シェアによる業務拡大に伴い、臨床検査技師は「検査」の専門知識や技術をもつ職種として重要視されている。そのために「検査」のスペシャリストになるよう人間性や知識・技能の向上を目指し育成していく。全学年問わず、基本となるコミュニケーション能力を上げるために、日常的な規則の遵守・挨拶の励行を徹底し、協調性を身に付けさせていく。さらに疾患および病態の習得、各職種の業務内容の理解、また病院医療安全管理の大切さについて認識させ、医療人となることを自覚するように教育する。

2022年度から始まった新カリキュラムは2年目を迎え、引き続き初期の指導を強化し学習習慣の定着を目指す。専任教員担当の科目においては、小テスト実施により学習状況を把握し補習等で学力不足を補う。1年生は前期から基礎実習を行い、器具の取り扱いなどの基本的な技術・知識を身に付け、実習専門科目へのスムーズな導入に役立たせる。2年生は、専門科目・実習において専門知識の習得・理解力を深め、臨地実習また国家試験に向けての重要な準備期間として指導を行う。3年生においては臨地実習・就職活動をサポートすると共に、早期からの国家試験対策を行い、資格取得を目指した学習指導を徹底する。

＜専攻科臨床工学専攻＞

臨床工学専攻(1年)では、医学、工学の専門知識、技術を修得できるよう授業の充実化を図り、最終目的である臨床工学技士国家試験の合格を目指す。本専攻の学生背景は四年制大学生(臨床工学コース、工学部等)の4年時編入の学生や臨床検査技師や看護師資格を有する学生など様々である。このためチューター制を継続して学習指導はもとより生活指導、就職指導など個々に応じた、きめ細かい学生指導・支援をすることとする。

国家試験対策としては、総合演習講義の充実および模擬試験(学内模試3回、外部模試6回)の実施とともに夫々に振り返りを行い、弱点領域の克服に努め、90%以上の合格を目指す。学生募集に対しては、引き続き医用工学系大学や臨床検査養成施設等へ入学案内等の広報活動を行っていく。

＜柔道整復専攻＞

実学を重視し「患者様の気持ちを理解し、治す力」を備えた柔道整復師の養成を目標に教育を行っていく。具体的対応としては1年次の早い時期に社会における柔道整復師の役割、実際の仕事内容の具体例を挙げて仕事への理解を深める。また学生それぞれに自身がケガをした際の体験談やその時の気持ちをグループワークで共有させ、患者の気持ちの理解が治療上重要であることを学ばせる。2年次からは実際の治療を想定した実技・実習教科の教員と臨床実習担当の教員が連携を図りつつ、より実践的な知識と技術の習得を目指す。さらに各実技授業では技術の取得のみならず、患者モデルとしての体験を通じて、治療期間中に患者にかかる負担を体験させ、そうした負担軽減の重要性を理解させる。3年次には客観的能力審査を実施し、実学の集大成として、実際の患者対応を想定した「医療面接、診断、治療計画、治療の実施、予後の管理」能力を評価する。臨床実習では施設に来院する患者の観察および治療補助を通して、具体的な症例と患者心理を学ぶ。資格取得に備えた学力向上については2年次から実力試験を実施して個々の学生の理解度の低い教科を把握し、その後の個別指導につなげ、3年次に備える。3年次には個々のレベルに応じた学力別指導を行う。具体的には学力別班編制、チューター制の実施、それらを踏まえた授業外補講の実施を予定している。

④通信教育課程

学生募集活動は合同説明会やオープンキャンパス・個別見学を中心とする。学内見学は予約制とし、より丁寧な説明を期することにより、通信課程の学生生活のイメージをもちやすくする。新入生オリエンテーションの運営の効率化および充実を図るとともに、在学生に対して、学生便覧、サブテキスト、帝短通信(機関誌)や担任面談等を通じてレポート作成のポイントや注意点等に関する学修支援を充実させる。2023年度からレポート作成方法にパソコンによる原稿提出も可能とし、学修環境の向上を目指す。就職希望者に対する情報提供、フォロー体制についても一層強化する。

(2) 帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期す

ることを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓「礼儀・努力・誠実」を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさを持った教育・指導・助言を行う。

中学校では、スコラ手帳を活用しての PDCA の実践し、具体的には「書く力」・「時間の有効活用」・「考える力」・「自己管理の徹底」を養成する。学習活動においては国語力向上のため、読書習慣を定着させ、読解力を向上させるための独自プログラムをさらに工夫を重ねて実践していく。英語学習では、オンライン教材を使用しての学習により 4 技能修得を図る。

高等学校では、2022 年度の高等学校指導要領改定に対応した、本校独自の教育課程となる 4 コース(国際文化・言語文化・人文社会・科学探求)により、生徒の特性・関心に対しより効果的な教育を行っていく。総合的な探求の時間においては、生徒が自身のコースを紹介する動画制作を課題とし、「想像力」・「表現力」の育成、そして IT リテラシーの向上に力を入れていく。本校の教育目標を実現するため、教職員の教科指導研究、進路指導研究などへの積極的な参加・実施を通じて、より深い知識や能力の向上をはかる。

生徒を取り巻く環境の国際化への対応は、海外修学旅行、語学研修だけでなく、実用英語検定受験必須化、短期ターム留学の推進、海外短期留学生受け入れ等を進め、併せて本校の国際理解教育を広く周知させる広報活動にも工夫改善を行うことで、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3) 帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施する。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や地域の母子を対象に子育て支援活動(ふれあいタイム)を実施する。このような幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、社会体験、直接体験のできる場を取り入れる。

(4) 帝京にしき幼稚園

「よくみる・よくきく・よくする」をモットーに、遊びを中心にしながら多様な体験を通して、個を發揮し礼儀正しく思いやりのある子どもの育成を目指す。そのために幼児理解を基盤として計画的に環境を構成し、指導内容の充実を図る。具体的には、指導計画を立案し、評価の充実を図り、幼児の発達を見通してそれぞれの時期に必要な教育内容を明らかにした計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通

して造形、身体、音楽などを表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、教育研究用 ICT 設備の充実化を実施してきた。2022 年度に SINET6 への移行対応も終了し、高速ネットワーク環境を整備した。今年度は、学務システムの機能強化、学内端末の Windows11 への対応及び、各部署で導入している業務システムの年次更新に向けた検討を行う。また、eduroam JP の学内使用可能場所の拡大による wifi 網について引き続き検討を行う。

帝京八王子中学・高等学校では、体育館「蔦永館」が日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、さまざまな講演会、吹奏楽部、ダンス部の発表会など多目的に利用されており、保護者や一般来場者にも教育環境のアピールを行っている。

帝京八王子中学・高等学校と短期大学ネットワーク一元化も実施し、教職員及び生徒用ネットワーク環境も高速化することができた。利活用を進めるため、2023 年度においてもクラウドサーバの活用などを進める。

帝京めぐみ幼稚園ならびに帝京にしき幼稚園においては、各保育室の保育環境、備品、園庭の整備等、園児の健康により配慮した保育環境を整える。また、帝京にしき幼稚園では第二園舎の保育への活用を進めていく。両園のホームページシステムの更新が予定より遅延しており、システム更新を進め情報発信強化を図る。整備した園務システムおよび ICT 環境を活用するとともに園バスの園児送迎安全システム導入を進める。

4. 学生支援の充実（帝京短期大学）

学生の心身の健康問題の対応・学習支援・進路選択をトータルで支援していけるよう、各部署の教職員で構成された学生相談支援委員会で学生情報の共有を図り適切な支援につなげていく。また、保健室に複数の養護教諭を配置し担任との連携を図り、個々の学生の対応を丁寧に行うことで、心身の健康問題の早期発見や対応につなげていく。専門的な支援が必要な学生に対しては、帝京平成大学臨床心理センターでカウンセリングを受けられるよう連携を図る。さらに、保健だよりの定期発行を行い、健康への意識向上を図る。学習面については、課題を抱える学生が多く、個別の学習支援を考えていく。また、合理的配慮に関する相談窓口の設置、運営にあたり障害を持つ学生も安心して学べる環境作りを行う。様々な背景を抱える学生への対応と適切な支援を提供するためにも、全教職員を対象とした研修を継続的に実施していく。

2023 年度も就職対策委員会の担当教員との連携のもと学生をこまめにフォローし実就職率 85%以上を目指す。キャリアサポートセンター職員が適宜学生と面談し当該の就職・進学進捗状況をフォローしていく。また、授業(社会人入門セミナー・キャリアデザインⅠ・Ⅱ)、キャリアガイダンスによる就職実践力の習得、新卒応援ハローワーク等との連携、履歴書添削、面接練習等の就職指導の充実、学内企業説明会実施等により就職率・実就職率の向上を目指していく。

5. 学生募集計画（帝京短期大学）

本学ではアドミッションポリシーに合致した学生を受入れるため、9月から3月にわたり総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、社会人選抜など多様な入試制度とともに大学入学共通テスト利用入試においても募集してきた。2022年度入試からは選抜方法の一部見直しを行い、総合型選抜の選考方法の筆記型から面接型への変更、および総合型選抜Ⅰ期でのエントリー面接の導入を実施した。2024年度入試も同様の選抜方法を行う予定である。対面イベントとしては5月～10月にかけてオープンキャンパスの回数を増やし、8月に入試説明会を併行して実施する。3月には高校2年生を対象とした春のオープンキャンパスを実施し、次年度のイベントに繋げていく。また、入試広報課職員のみならず教員も高校訪問を行い、募集活動に努めている。さらに、グループ大学と連携した相談会参加や高校訪問も行っている。

ホームページにおいてはこまめな情報の更新に努め、パソコンサイトはもとよりスマートフォンユーザーに対しても閲覧しやすい画面構成にしている。加えて、相談会参加者や来校者からの問い合わせだけでなく、電話やLINEでの顔の見えない問い合わせに対しても、懇切丁寧な対応をすることで志願者の増加につなげていく。また、大学パンフレットについては、制作会社を定期的に変更することでより質の高いパンフレット制作を心がけている。

6. 地域社会への貢献（帝京短期大学）

コロナの影響が低減してきたため、地域のお祭りなどのイベントや各種ボランティア活動がコロナ前と同程度に実施されるようになってきており、イベントや地域ボランティア活動への積極的な参加を通じて、地域活性化に貢献していく。イベントやボランティア活動の参加者については学内で広く募集をして、積極的に参加を希望する学生に対して地域貢献活動を通じた様々な学びの機会を提供するようしていく計画である。

また、渋谷区とのS-SAP協定を通じて、渋谷区にある企業や大学との産学連携事業についても取り組むことで地域社会への貢献ならびに他大学との交流を計画している。

7. 自己点検・評価（帝京短期大学）

2022年度の自己点検・評価は、教職員が帝京短期大学独自の自己点検・評価PDCAシートを用いて行った。また、各委員会もPDCAシートを用いて自己点検・評価を行った。自己点検・評価において改善を必要とする課題については、各部署において検討し、解決を図る。初任者に対して、本学の自己点検・評価について説明会を実施し、教職員共通の理解を深める。

学習成果報告書は、担当科目について全教員へ依頼し、作成することにより、授業改善および学生の学習成果の獲得を向上させる。

8. 2023 年度予算の概要

(1) 収入

各学校・幼稚園ともに、入学者数、在學生数減により前年度予算比減収を見込む。
学校法人全体で学納金は前年度予算比減少の見込み。

(2) 支出

人件費抑制をはじめ各学校・幼稚園とも経費削減に努め、前年度予算比支出減を見込む。

(3) 事業活動収支差額

経費削減に努めるが収入の減少を補うことができず、事業活動収支差額は学校法人全体で減少の見込みである。

以 上